

# 絵画へ捧げる引力

薬師川 千晴 Yakushigawa Chiharu

2011年に京都精華大学洋画コース卒業、2013年に同大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻を修了した薬師川千晴(やくしがわちはる)がわちはる／1989年滋賀県生まれ)は、在学中よりグループ展などに出品を重ねるとともに、2014年に初個展となる『絵画碑』(ギャラリー・パルク)を開催、2015年には『ハイパーニック・エイジ』(京都芸術センター)に出品するなど、着実にその活動を展開させています。

薬師川はこれまで、多くはテンペラ絵具を用い、紙に絵具を置いてそれを二つ折りにして転写し、対称の図を創出するデカルコマニー技法をもって絵画制作に取り組んでいます。絵画に向かう薬師川の思考にはまず、あらゆるものから質量が失われつつあるこの世界への危機感があると言います。そこから絵画を作家の「表現」とするのはなく、作家が絵画を「通して」思考し、そこにどのような質量(何か)を「託す」のかという自問を抱いています。作品『絵画碑』では、まず絵画に「時間を託す」として、かつて、何かであったものの集積である「土」によるテンペラ絵具とデカルコマニー技法により、画面上に現在までの「歴史」という時間を堆積させ、絵画をまるで「時の碑」とするかのような取り組みを見せています。

同時に「絵画とは絵具と絵具が引き合い、隣同士の色とが交わる連鎖により成り立っている。この意味において、絵画とは絵具と絵具の引力によって成り立っているといえるのではないだろうか。」とする視点から、「この質量ある物質にそなわる互いに求め合う引力を作品に託す。」と思考を進め、時間の集積である絵具の塊をデカルコマニーにより再び分つことで、互いに引き合う微かな「引力」を画面上に生じさせようと試みます。

本展『絵画へ捧げる引力』は、こうした薬師川の願いを込めた一連の作品『絵具の引力』を中心に構成しています。個々の作品上に見られる動きには、かつてひとつであった物質が引き合うベクトルを見ることができるとともに、ここに過去・現在・未来へとつづる時間を垣間見ることが出来ます。また、そのシンメトリックなフォルムには、私たち「人」の面影、あるいは願い・祈る時に「合わせる手」にも似た姿をも垣間見ることができ、ここには物質世界と非物質的世界の狭間の様相を目にする事ができるのではないのでしょうか。

あらゆるものから質量が失われつつあるこの世界で、今、絵画を通して、質量ある物質特有の「引力」という力について考えてみる。そもそも引力とは、空間的に相まった物質が互いに引き合う力のことである。どんな物質も質量さえあれば、互いに力を伝え合い、引き合う力を元来そなえている。では、絵画においての引力とは何だろうか。

当たり前のこともかもしれないが、絵画とは絵具と絵具が引き合い、隣同士の色とが交わる連鎖により成り立っている。この意味において、絵画とは絵具と絵具の引力によって成り立っているといえるのではないだろうか。その絵具の引力をより純粹に引き出すために、描画技法としてデカルコマニー技法を用いる。デカルコマニーとは、フランス語で写し絵・転写画を意味し、紙に絵具を塗りつけ、それを二つ折りにしたり別の紙に押し付けることで、塗りつけられた絵具を転写し、左右対称の図を描く絵画技法のことである。

この技法を用いることにより、重ね合わされた絵具、つまり、一度ひとつの塊となった絵具を引き剥がし、ふたつに分かせることで、絵具の持つ互いに引き合う力を絵画により強く生じさせることが出来る。そうして出来た作品は、人が祈る時に合わせる手に、どこか似ている。

そもそも、人はなぜ祈る際、手を合わせるのだろうか。思うに、手を合わせる事により、人は「何も持てなくなる」事が重要なのではないだろうか。それはつまり、何かを抱える手段である手を天へ差し出し、物質世界とは離れた位置から「祈り」という非物質的な行為へと移行する、ある種の儀式のようなものなのだろう。

そして、ひとつに合わさった手をひらくと、そこには右手と左手が現れる。つなぎ合う力を「両者」に分かれさせることで、双方の関係が生じ、そこには、ものともとの間に生じる引力が生まれる。つまり、引力とは物質単体では存在し得ない、ものともとの関係性にのみ生じる「互い」の力なのだろう。

私は、この質量ある物質にそなわる互いに求め合う引力を作品に託す。そして、この絵具の紡ぐかすかな引力を絵画へと捧げようと思う。

二〇一五年九月二十三日 薬師川千晴

## 略歴

1989年滋賀県生まれ。2011年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業。2013年京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻卒業。

## 展覧会「個展」

2014 「絵画碑」(ギャラリー・パルク・京都)

## 展覧会「グループ展」

- 2015 「ハイパーニック・エイジ」(京都芸術センター)
- 2014 「Kyoto Current 2014」(京都市美術館)
- 2013 「科学のあとに詩をかくこと」(ギャラリー16・京都)
- 2012 「主張展」(ギャラリー・アーティストスロウ・京都)、「懐」(常懷荘)
- 2011 「Leave Color」(視覚と知覚) キヤラー・フーール(京都)
- 2010 「京展」 京都市美術館

受賞 2010 「京展」芝田記念賞

展覧会評 2014 『碑文・絵画碑に寄せて』平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)

## 展示作品

- 01 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 02 《一对の絵画碑 #3》 練り込みテンペラ、土、顔料、紙 2015
- 03 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 04 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 05 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 06 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 07 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 08 《一对の絵画碑 #1》 練り込みテンペラ、土、顔料、紙 2015
- 09 《一对の絵画碑 #2》 練り込みテンペラ、土、顔料、紙 2015
- 10 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 11 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 12 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015
- 13~15 (\*階段部分) 《絵具の引力》 油絵具、紙 2015

